



### 「おどる! シラタカ・レッド」

1. フルバージョン
2. ショートバージョン
3. カラオケバージョン



### 「ごつつおうしらたか」

季節ごとの旬の食材及び紅(あか)い食材を使った全55メニュー



## 全国に誇れるものを—— SHIRATAKA RED 開発商品

食に限らず、紅花と他品目との融合による新商品を開発し町内外へPRすべく、平成28年6月から白鷹町商工会(黒澤利朗会長)は「SHIRATAKA RED 商品開発」を進めてきました。

今年度は、町内9事業所が同商品開発委員会(海老名勉委員長)を開催しながら、各事業所の特色を生かした商品開発を検討。そしてこのたび、9事業所10商品が完成し、2月21日に町文化交流センターあゆーむにおいて発表会及び即売会が行われました。

紅花そのものをはじめ、乱花や天然紅色素、さらにはミニトマトや米沢牛など、全ての商品に紅(あか)い素材を使用。赤や黄など、見た目も鮮やかで品のある商品になっています。なお、商品は現在、各事業所で直接購入すること



山形銀行荒砥支店に展示された開発商品

ができます。

町観光交流推進計画で生まれた「SHIRATAKA RED」は、こうして商工業者・商工会の皆さんの力によって関連商品が増え、その商品は町内金融機関に展示されるなど、さまざまな分野で後押しされ、発信されています。

### 紅花を日本農業遺産へ 紅花シンポジウム開催

山形県紅花振興協議会により実施されている「紅花の日本農業遺産認定」に向けた取り組み。その一環として、昨年7月に十王八卦地区の紅花圃場と畔藤地区の紅花圃場及びネギ圃場において、「生物多様調査」及び「土壌肥沃度調査」が実施されました。

そして、この調査を踏まえ、SHIRATAKA RED 商品開発発表会と同日同所にて「日本農業遺産認定を目指す紅花シンポジウム」を開催。紅花生産意欲の向上と生産地間のネットワーク構築、日本農業遺産の認定に向けての理解を深めることを目的に、県農林水産部園芸農業推進課の高橋志津

主査より調査結果の解説がありました。

高橋主査は、「(調査の結果)紅花圃場はさまざまな昆虫や土壌微生物が生息する多様性が豊かな場所となっていることがわかった。生き物が多い地域は土地が豊か。町内に紅花圃場をたくさん増やし、周辺圃場及び地域に豊かな恵みをもたらしてほしい」と参加者に呼びかけました。

\* \* \*

## 魅力を誇りに。 そして、町を変える力に——

全国的に見れば、まだまだ認知度の低い白鷹町。しかしそれは、言い換えれば白鷹町のイメージを全国に発信できる好機ともとらえることができます。

さらに、色にこだわった地域のPRは、ほかの地域にはないまったく新しい取り組みであり、この強みがあるといることが、白鷹町の認知度向上の大きなチャンスとなっています。

そして、町のイメージが定着し、その名が全国に知られることになれば、観光はもとより、移住や経済効果といったさまざまな分野にまで波及し、私たちの暮らしや生活に返ってきます。

「白鷹町は紅花の生産が日本一で、紅(あか)にこだわった『SHIRATAKA RED』っていうブランドがあってね——」町に住む皆さん一人ひとりが、身近にある魅力を我が町の誇りとして実感してみてください。そして、それを発信することで、これからの白鷹町の未来を少しずつ変えていきませんか。